

Y10b 仙台市天文台 - 宇宙を身近に -

溝口小扶里 (仙台市天文台/大阪教育大学)、土佐誠 (仙台市天文台)

仙台市天文台は、西公園での52年間の歴史に幕を閉じ、2008年7月1日に仙台市郊外にある錦ヶ丘にリニューアルオープンする。旧仙台市天文台は1955年に「市民の天文台」として開館し、たくさんの人々に愛されてきた。その理念を継いで新たに建設された天文台は、主に「観測」「展示」「プラネタリウム」の三つのゾーンを備えた天文総合博物館である。大型望遠鏡の口径は1.3mで、開館後は毎週土曜日に観望会を開催する予定である。展示室は1200の広さがあり、太陽系の模型などで宇宙の大きさを体感できるようになっている。そして、ドーム径25mのプラネタリウムは光学式プラネタリウムとデジタルプラネタリウムを融合させたハイブリットシステムを採用し、様々な演出が可能である。それ以外にも、カフェスペースや惑星広場など、市民の方が気軽に立ち寄れるようなフリースペースもある。また、旧天文台から続けられてきた移動天文台や小中学校の天文台学習も実施する。新仙台市天文台はPFI方式により今後30年間、維持管理・運営が行われる。「宇宙を身近に」を施設アイデンティティーとし、開館後は、市民や企業等と連携しながら、市民の方々に身近に感じてもらえるようなきっかけづくりを行っていく。